

創 立 昭和 32 年 4 月 19 日  
 会 長 長 谷 川 博 章  
 会長エレクト 森 川 善 隆  
 副 会 長 平 田 博 也  
 幹 事 松 井 大 典  
 公共イメージ 辻 田 真 海



2020-21 年度 地区スローガン  
**ロータリーの原点に戻る**  
 誠意をもって語り合い、勇気をもって共に未来へ

事務局（例会場） 榎原市久米町 652-2 THE KASHIHARA 4F  
 TEL/0744-28-2801（直通）  
 FAX/0744-28-2802  
 E-mail/krc@jeans.ocn.ne.jp  
 TEL/0744-28-6636（ホテル）

例会日 金 曜 日  
 12 時 30 分～13 時 30 分

Vol. 64 No. 8 (2020-21)  
 2020(令和2)年9月25日発行

**9月は、「基本的教育と識字率向上月間」  
 (Basic Education and Literacy Month) です。**

**第 3067 回例会報告書**

2020 (令和 2) 年 9 月 11 日

ーガバナー公式訪問ー  
**【あすか RC・やまとまほろば RC との合同】**  
 ホスト：榎原 RC

司会 SAA・菅生康清会員  
 R.song 奉仕の理想  
 ソング・リーダー 吉川弘晃会員

**ゲ ス ト**  
 国際ロータリー第 2650 地区  
 ガバナー 松原六郎様  
 ガバナー補佐 甲村侑男様  
 榎原 RAC 会長 福本紗弓さん

**出 席 報 告**  
 会員 43 名  
 (9/11) 出席者 34 名 出席率 85.0%  
 会員 42 名  
 (8/28 補正) 出席者 28 名 出席率 75.67%

**ニ コ ニ コ 箱**  
 ◎自祝金………国際ロータリー第 2650 地区  
 ガバナー 松原六郎様、  
 ガバナー補佐 甲村侑男様  
 ◎本日、公式訪問合同例会にてホストを務めさせて頂  
 きますので、よろしくお願い致します。  
 ……………長谷川博章会員  
 ◎榎原ロータリークラブ書道同好会の作品展をご覧頂  
 き、ありがとうございました。  
 ……………井上輝好会員  
 ◎松原ガバナー、榎原 RC へようこそおいでくださ  
 いました。父がお世話になりました！書道、出品しま  
 した。  
 ……………羽根史朗会員

◎書を見てもらいました。……………福井良盟会員  
 ◎チョットうれしいことがあったので。  
 ……………山川 賢会員  
 ◎誕生日お祝い  
 吉村輝高会員 (9/2)

**会 長 挨拶**  
 <ホストクラブ：榎原 RC 長谷川博章会長>



皆さん、こんにちは！本年度、榎原ロータリークラブの会長をしております長谷川と申します。どうぞよろしくお願い致します。

本来なら、各クラブの会長様からそれぞれご挨拶を頂戴するところではございますが、時節柄、お許しを得てホストクラブの榎原が代表にて御挨拶させていただきます。

まず、松原ガバナーにおかれましては福井より遠路、ここ榎原の地迄お越し頂きました事、会員一同を代表して御礼申し上げます。

また本日はコロナ禍という事とご自身が医師というお立場からご配慮頂きおひとりでお見えになったとの事で大変恐縮しております。

ご存じの通りガバナー公式訪問は例年より2か月遅れの9月スタートとなり、本日は確か8カ所目であ

り奈良県下では最初の訪問となり、早い機会にお顔を拝見できることは会員一同、有難く感謝しております。ズームによるWEB会議はありますがやはりお顔を拝見してこそ伝わるものがあると思いますので本日はよろしく願い致します。

さて、本年度は新型コロナウイルス感染症の影響で各クラブとも活動が制限され対外事業は殆んどできないままになっています。

いつ収束するかわからない状況では何をなすべきかの答えを見出すことは中々、難しいといわざるを得ません。

こうした中、地区スローガンである「ロータリーの原点に戻る」をもとに各クラブはもう一度、現状を見つめ直す良い機会であると思います。

本年度、あすかロータリークラブは30周年、やまとまほろばロータリークラブは桜井から数えれば45年、橿原ロータリークラブは来年65周年を迎え、ウイズコロナからアフターコロナの時代に向けて着実に足元を固める時期だと考えます。

それぞれのクラブが知恵を出し、本来の奉仕活動をいかに進めていくかが今後の大きな課題となってきます。

この後のガバナーアドレスがそういった方向性を見いだせるヒントになる事を期待して拝聴させて頂きたいと思っております。

最後になりましたが松原ガバナーにおかれましては体調にご留意され全ての公式訪問を無事、終わられることを祈念申し上げ、また3クラブの会員皆様のご健勝、ご多幸を祈念して歓迎のご挨拶とさせていただきます。

本日はよろしく願い致します。

ありがとうございました。

## 「ガバナーアドレス」

— Governor's Address —

国際ロータリー第2650地区

松原六郎ガバナー

RI 会長ホルガー・クナーク氏の掲げたテーマは、「ロータリーは機会の扉を開く」です。ロータリーに参加すること、ロータリーが奉仕活動を行うことは、自分自身や多くの人々に未来へのチャンスをもたらす。そして、とくに若者の未来を広げるものだと述べられました。もちろん、その根底にあるのは、ロータリーのビジョン声明です。「私たちは、世界で地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指しています。」地区といたしましても、皆様のクラブがビジョンの実現に向けて一歩でも歩みを進めて行っているようあらゆるお手伝いをしたいと決意している次第です。



今年度地区スローガンを、「ロータリーの原点に戻る 誠意をもって語り合い、勇気をもってともに未来へ」とさせていただきます。私自身はこのスローガンを RI の変革の先にあるものと、皆様のクラブの独自性とをどのように折り合いをつければ良いのか話し合っていたきたく掲げました。しかし、この世界的感染状況の中、否が応でも、我々の行為で、何が大切で、何が大切でないかを考えなければならなくなり、まさに「原点に戻らざるを得ない」事態となってしまいました。

そこで、この事態に呼応すべく地区の3つの基本方針、9つの運営方針を見直し、ガバナー月信7月号に記載させていただきました。どうか、もう一度ご確認いただければ幸いです。

新たな基本方針をまとめて申し上げますと、

1、自らがウイルスに感染せず、人に感染させないことに最大限注意しながら、ご家族と、我々が生業を守る職業奉仕を全うする。つまり、ご自分とご家族、周囲の方々を守っていただきたいのです。そして、仲間を守っていただきたい。さらに、ローターアクター、インターアクター、各財団の奨学生を含め未来を担う全ての若者を守っていただきたいと存じます。

2、今一度ロータリーの原点に戻り、ロータリークラブ一つひとつ、ロータリアンお一人おひとりと誠意をもって語りあう。大切なこと、良いことは皆で共有し、勇気をもって共に未来に向かって実践していく。この実践は間違いなく、感染拡大が収束した後に、間違いなくやってくる新しい時代に適応した大きな改革となることでしょう。

3、少しでも余力のあるロータリアン、ロータリークラブから、新型コロナウイルスや様々な災害によって被災した人々に寄り添い、勇気を取り戻すために社会奉仕活動を実践する。また、ポリオ根絶のための取り組みに挑戦する。つまり「地域を守る」社会奉仕の実践をお願いしたいと存じます。皆様のクラブや皆様ご自身が既に数多くの素晴らしい活動をされていることは既にお聞きしています。どうか、もう一つ、とくに子供達や若者に寄り添う奉仕をお考えいただきたいと存じます。

続く運営方針については、9項目のどれも欠かせないものでありますが、とくに、クラブで未来に向けた戦略会議を開いていただきたいと存じます。

また、財団などへの支援金については、将来のため、

若者のために何とか確保していただきたいと考えています。具体的な目標額を申し上げますと、年次基金お一人 180 ドル、ポリオプラス 30 ドル、ほかにも恒久基金、大口寄付などもございます。米山奨学金は 24000 円、ロータリー希望の風奨学金は 5000 円、ご無理を申し上げて誠に恐縮ですが、未来のため、若者たちのため、これらだけはどうしても守り抜くことをお願いしたいと存じます。各項目については、各地区委員会の委員の皆様が、厳しい状況下でも最善の努力を続けてくださっておりますので、それぞれが発する情報をお聞きいただき、積極的に行動していただきたくお願い申し上げます。

そして、これらの行為は、ロータリー賞、ガバナー賞につながるものです。どうか、いずれも取得して、歩みを進める通過点の印として頂きたいと存じます。

私は自身のロータリーの原点に思いを巡らせている時でした。ある日、あるコラムに出会いました。1964 年東京オリンピックが終わった日のことが書いてありました。書いたのはジム・ミューレという新聞記者でした。彼は取材が終わり、羽田空港から帰路に就く飛行機の中にいたのでしょう。

「サヨウナラ、日本

サヨウナラ……電光掲示板の文字が闇に浮かぶ……。

日本人にとって国を挙げての大事業は終わり、メダルは渡され、幕は下ろされた。

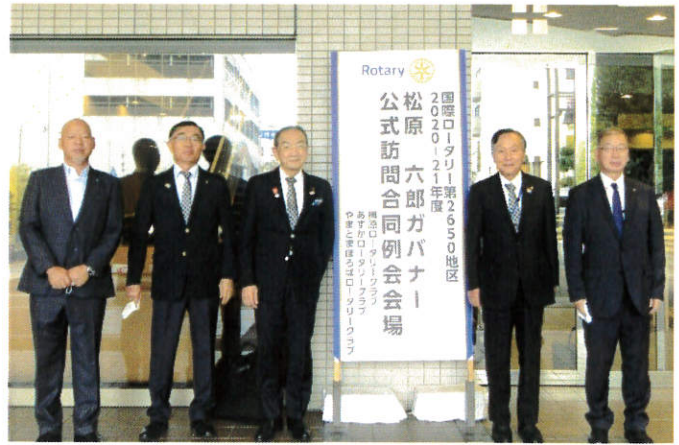
だが、雨宿りをしていたら、傘をさしかけてくれた少年。土砂降りの雨の中、自らレインコートを脱いで貸してくれた青年。チップを受け取らないタクシーの運転手。笑顔のエレベーターガール。

・・・サヨウナラ、美しい親切な国、日本。

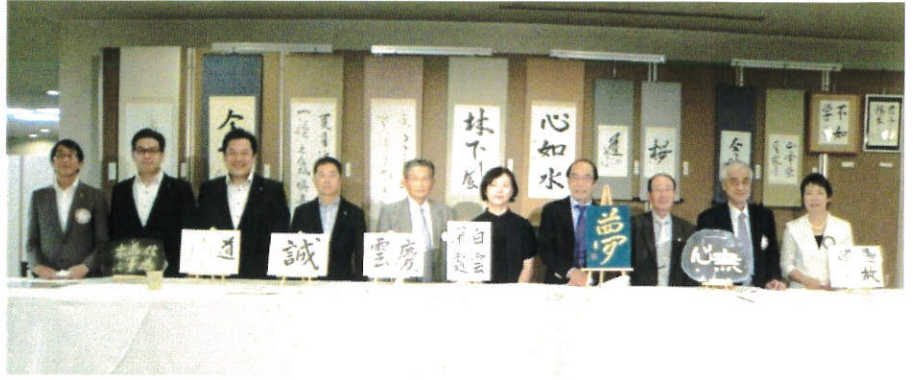
私は、この国全体に金メダルを贈りたい。」

(出典：シンプルグットバイ ジム・ミューレ 人づくり・ものづくり・夢づくり 前田又兵衛)

これからどんどん変化していくロータリーや地域社会の中にあっても、私はこのコラムに出てくるような日本人の一人のロータリアンとして居続けたいと思います。



書道同好会 作品展



檀原学院高校インターアクトクラブより、  
「特別養護老人ホームかなはし苑」さん、  
「児童養護施設 飛鳥学院」さんへ  
マスクを寄贈しました！



檀原学院高校インターアクトクラブより、  
「特別養護老人ホームかなはし苑」さん、  
「児童養護施設 飛鳥学院」さんへ  
マスクを寄贈しました！

檀原学院高校インターアクトクラブ（8人）は毎日手作りのマスク計150枚を、交流のある特別養護老人ホームかなはし苑と児童養護施設飛鳥学院に寄贈した。

心込め手作り マスク150枚寄贈

放課後使い協力制作

同クラブは、檀原ロータリークラブ（長谷川博章会長）のサポートで社会奉仕や国際理解のために活動。本年度は、こども食育などの新事業も計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大中止となった。し、今後の活動期間に作業を分担して制作を再開。材料は自宅から集められたり、持ち寄った。

完成したマスクは180枚。日頃から交流している団体も、2年生の垣口理彩部長（16）は「少しでも明るい気持ちになってもえれば」と、心を込めて縫ったと話した。

かなはし苑では毎年、高来交流会を行っていたが、今回はマスクの寄贈だけにした。障壁行動理事長は「皆さんの温かい配慮のマスクを活用させていただき、まことに感謝を述べた。」と謝辞を述べた。

両理事長（手前左）に手作りマスクを手渡す部員＝12日、檀原市藤井町のかはし苑

寄贈した際の様子、  
奈良新聞に掲載されました。

- 【例会ご案内】**
- 10月2日（金）《第1例会》  
「ベトナムと日本の架け橋への道」  
米山奨学生 グォン・ティータイン・ヒュオン氏  
担当：米山奨学委員会
  - 10月9日（金）  
休会
  - 10月16日（金）《第2例会》  
京都大学 iPS 細胞研究所 教授 長船健二氏  
担当：プログラム委員会
  - 10月23日（金）《第3例会》  
担当：長谷川博章会員
  - 10月30日（金）  
休会

- 【同好会】**  
書道同好会
- 10月2日（金）・10月16日（金）  
午後2時～ 於：4階 楓の間
  - 【RAC 例会】**  
〔檀原オークホテルにて、午後7時30分～9時〕
  - 10月14日（水）《第1例会》  
専門能力開発①
  - 10月28日（水）《第2例会》  
クラブ①
- ※卓話資料はデータでの提出をお願い致します。